

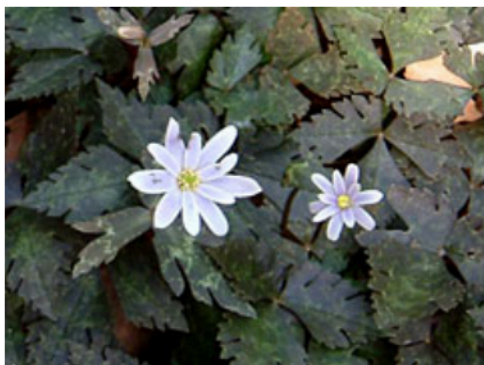
教職員情報

理学部附属

植物園のいきものたち

第11回

新年度最初の植物園紹介です。今回は早春をいどった花をとりあげます。



▲写真1 ユキワリイチゲ

写真1(上):ユキワリイチゲ (*Anemone keisukeana* T. Ito、キンポウゲ科)

雪割一華の名をもつとおり、茎の先に一つの花が、早春の肌寒い頃咲きはじめます。夏のあいだは葉がなく、樹木が落葉している冬のあいだだけ葉が茂って光合成をします。そのため花が可憐な翌春には葉が古びてしまっているのが、玉に瑕といったところでしょうか。

またこの仲間は「アネモネ」として多く栽培されていて、なかでも中国原産のシュウメイギクなどは各地で野生化しているようです。Anemoneは風という意味のギリシャ語に由来しますが、これは種子が風に乗って運ばれることにちなみます。

京大植物園ではいくつかの群落があるようですが、その正確な場所は伏せておくことにします。



▲写真2 サンシュユ

写真2(下):サンシュユ (*Cornus officinalis* Sieb. et Zucc., ミズキ科)

中国・朝鮮の原産で享保年間に渡来しましたが、いまでは庭木・花木としてすっかりおなじみです。山茱萸(さんしゅゆ)というこの植物の完熟した果実から作られる漢方薬を指すこともあります。

早春、葉が開くまえに黄色の花を咲かせることから春黄金花(はるこがねばな)とも呼ばれます。枝先に集まって花が咲き、遠目にはわかりにくいですが、一つ一つの花は1cm未満の小さなものです。

早春の花は、このサンシュユをはじめロウバイ、マンサク、ヒュウガミズキ、ダンコウバイ、アオモジ、シナレンギョウ、そしてタンポポの仲間と、庭木、野生の樹木から草にいたるまで黄色や薄黄色の花にしめられています。しかし、この時期に黄色い花が多いのはなぜか、という問いに明確な答えは示されていません。